

学校 教育 目 標	「みとめ合い 学び合い 高め合う子」 知: 子どもの興味関心を高める授業改善に取り組み、基礎・基本を大切にしながら、課題解決に向けて粘り強くやり遂げる態度を育てます。 徳: 社会のきまりやマナーを守る規範意識を高めながら、善悪をしっかりと判断し、節度や礼儀を大切にすると共に、仲間を思いやる心を育てます。 体: 自他の生命を大切にすると共に、規則正しい生活習慣や食習慣への意識を高め、健康でたくましい体をつくろうとする態度を育てます。 公: 自分らしさを生かして集団に関わり、二谷のまちや人に感謝しながら、社会の一員としてよりよい社会生活を営もうとする態度を育てます。 開: 様々な人々とのコミュニケーションを通して社会への視野を広げ、国際社会や地球環境について考えようとする態度を育てます。				
学校 概 要	創立 121 周年	学校長 刀根 正秀	副校長 須山 恵	2 学期制	一般学級: 14 個別支援学級: 4
	児童生徒数: 405 人 主な関係校: 栗田谷中学校 青木小学校 幸ヶ谷小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力		栗田谷中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
< 問題発見解決能力 >		栗田谷中学校 青木小学校 幸ヶ谷小学校 二谷小学校	未来を拓き、心豊かに生きる力 「自己肯定感を育てる」「規範意識を高める」「思いやりの心を育てる」 ・横浜プログラムや社会情動的コンピテンシーなどを活用した児童分析をもとにした授業や単元づくりの 具体の共有を通して、児童・生徒の社会的スキルの育成を目指す。 ・対話的・主体的な学びを深めるために、児童・生徒どうしのやり取りを積極的に取り入れた授業づくり を心がけるとともに、ブロック校に共通のテーマである児童・生徒の「自己有用感」を高めることにつなげ る。 ・主体的・対話的で深い学びの充実に向けて、ICTの効果的な活用を意識した授業づくりを目指す。

中期 取 組 目 標	○子どもたち一人ひとりを大切に、全職員で信頼され活力のある学校づくりを進めます。 ・データを活用しながら、子ども一人ひとりの学習状況を捉えることで、子ども一人ひとりが「わかる・楽しい」授業づくりを進め、学力の向上と学習に向かう主体的な姿勢の育成を目指します。 ・子どもの一人ひとりの思いを大切にしながら、誰もが安心して楽しく学校生活を送ることができるようにします。 ・健康な心身をつくるために、望ましい生活習慣や体力づくりに日常的に取り組めます。 ・自己決定や自己実現、また多くの人との関わりを通して、子どもの自己肯定感を高めていくことができるようにします。
------------------------	---

重点取組分野		具体的取組
知	確かな学力	①スキルタイムでは、基礎基本の徹底を目指す。 ②ペア、グループ学習など、あらゆる教科で友達と協働しながら課題解決を目指す対話的な学習を進める。 ③「個別最適な学習」を授業に盛り込めるように重点研究部とも連携した学習・研修等を推進する。 ④振り返り活動をさらに推進する。
担当	評価部	
徳	豊かな心	①自分の大切さと共に他の人の大切さを認め、相互に尊重し合う態度や行動を育むために、道徳教育・人権教育の充実を図る。 ②より良い学校生活を送ることができるように、自他の成長を見据えて、進んで異学年が関わり合うようにする。 ③子どもが主体となったあいさつ運動を通して、あいさつの大切さを自覚し、気持ちの良いあいさつができるようにする。
担当	児童指導部	
体	健やかな体	①体力・運動能力調査を分析し、本校の健康課題を見つめ、解決に向けた活動を設定する。(体力向上タイム・運動週間など) ②学校保健委員会を活用して、健康課題解決のために全校で取り組む。 ③すこやかタイムでは、児童の委員会活動での取組とも関連させながら、運動・保健・食育について深められるようにする。ロイロノートのアンケート機能を活用しながら、振り返りの時間も充実させる。
担当	健康教育部	
公 開	自分づくり	①児童一人ひとりが、他者との関わりの中で自分の思いを表現しながら、自己有用感を高められるように授業改善をする。 ②「協働的な学び」を意識した授業づくりを行い、子どもたちが自身の考えの変容や深まりを実感する中で、肯定的に自己評価し、自信をもって学習に取り組むことができるようにする。
担当	重点研究部	
いじめへの対応		①子ども会議を通して、子どもが主体となった未然防止の活動の充実を図る。 ②いじめ防止対策委員会では、情報共有を図り、児童が安心して過ごせる環境づくりに努める。 ③児童理解・いじめに関する研修、L-gate、YPなどのアンケートを活用し、子どもの些細な変化を見逃さない体制づくりと、未然防止、早期発見、早期対応に努める。
担当	いじめ防止対策委員会・教務部	
人材育成・ 組織運営(働き方)		①学年・ブロック等の組織を活用し、日常的に研修に取り組むことで、キャリアステージに応じた指導力の向上を図る。 ②ICTを活用した事務の効率化や情報の共有化を図るとともに、組織的な働き方改革につなげる。 ③全校で一部教科分担制に取り組み、教師の指導力向上を図るとともに働き方改革を進めていく。
担当	教務部・メンター研	
学校運営協議会		①授業参観・学校行事への参加の機会を設定し、様々な視点から意見をいただき、学校運営の改善に役立てる。 ②学校評価アンケートの回答状況をふまえることで、地域と学校のニーズに合った学校運営協議会の運営に努める。 ③年4回の開催の中で、テーマを決めて計画的に進め、地域に開かれた教育課程の推進を図る。
担当	教務部	
特別支援教育		①より確かな児童理解ができるように職員会議や学年研を工夫して組織的に情報共有や共通理解ができるようにする。 ②関係機関との連携を図り、合理的配慮やユニバーサルデザインをテーマにした職員研修を行う。 ③特別支援委員会の内容の充実を図ることで、一人ひとりの子どもの教育ニーズを受け止め、支援を考える。
担当	特別支援委員会	
担当		
担当		

学校教育目標
「みとめ合い 学び合い 高め合う子」 知：子どもの興味関心を高める授業改善に取り組み、基礎・基本を大切にしながら、課題解決に向けて粘り強くやり遂げる態度を育てます。 徳：社会のきまりやマナーを守る規範意識を高めながら、善悪をしっかりと判断し、節度や礼儀を大切にすると共に、仲間を思いやる心を育てます。 体：自他の生命を大切にすると共に、規則正しい生活習慣や食習慣への意識を高め、健康でたくましい体をつくろうとする態度を育てます。 公：自分らしさを生かして集団に関わり、二谷のまちや人に感謝しながら、社会の一員としてよりよい社会生活を営もうとする態度を育てます。 開：様々な人々とのコミュニケーションを通して社会への視野を広げ、国際社会や地球環境について考えようとする態度を育てます。

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	具体化した資質・能力
＜ 問題発見解決能力 ＞	自ら課題を発見し、解決に努める力 情報を発信する力

中期取組目標
○子どもたち一人ひとりを大切にし、全職員で信頼され活力のある学校づくりを進めます。 ・データを活用しながら、子ども一人ひとりの学習状況を捉えることで、子ども一人ひとりが「わかる・楽しい」授業づくりを進め、学力の向上と学習に向かう主体的な姿勢の育成を目指します。 ・子どもの一人ひとりの思いを大切にしながら、誰もが安心して楽しく学校生活を送ることができるようにします。 ・健康な心身をつくるために、望ましい生活習慣や体力づくりに日常的に取り組めます。 ・自己決定や自己実現、また多くの人との関わりを通して、子どもの自己肯定感を高めていくことができるようにします。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
確かな学力	①スキルタイムでは、基礎基本の徹底を目指す。 ②ペア、グループ学習など、あらゆる教科で友達と協働しながら課題解決を目指す対話的な学習を進める。 ③「個別最適な学習」を授業に盛り込めるように重点研究部とも連携した学習・研修等を推進する。 ④振り返り活動をさらに推進する。
担当	評価部

学力向上に関わる本校の状況	今年度の目標
令和7年度に校内で調査した子どもへのアンケートによると、「授業が楽しい」「進んで授業に取り組んでいる」「みんなで話し合ったり一緒に考えたりする学習が好き」という児童が、全ての学年で8割を超えている。さらに、「学習が分かるようになってきた」という項目では、8割を超える児童がそのように感じているという結果が出た。保護者アンケートでも、8割を超える保護者が、スキルタイムの取組や課題解決に向けての児童の取組の成果を感じていることが分かった。しかし、「わたしには、よいところがある」という項目では、学年によるばらつきはあるものの、自分によいところがあると感じる児童の割合が高いとは言えず、自信のなさがかがえる。これは、知識として分かったと実感することで学習の楽しさを感じてはいるものの、自分で考え、選択・判断し、試行錯誤を積み重ねていく経験が十分に支援できていないからと考えられる。自己決定・自己実現の場を設定した授業を通して「分かる・できる」といった自己の成長や変容を実感できるようにし、そこから得た自信や達成感から自己肯定感を高め、主体的な学びにつなげていけるようにする。また、友達と学び合うやさや楽しさが味わえる活動を充実させていく。	豊かな学び合いにより、自己肯定感を高めながら主体的に学ぶ姿勢を育むとともに基礎・基本の学力の定着を図る。
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	・自己決定や自己実現を繰り返すことで、自己肯定感を高め、生き活きと学校生活を送れるようにする。 ・友達と関わり合いながら、主体的に課題解決ができるようにする。 ・スキルタイムを活用して、基礎・基本の学力定着に努める。 ・児童自身が身に付いた力を自覚し、課題に対して主体的に取り組む姿勢を身に付ける。
下半期	・自己決定や自己実現を繰り返すことで、自己肯定感を高め、生き活きと学校生活を送れるようにする。 ・友達と関わり合いながら、主体的に課題解決ができるようにする。 ・スキルタイムを活用して、基礎・基本の学力定着に努める。 ・児童自身が身に付いた力を自覚し、課題に対して主体的に取り組む姿勢を身に付ける。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①自分の大切さと共に他の人の大切さを認め、相互に尊重し合う態度や行動を育むために、道徳教育・人権教育の充実を図る。 ②より良い学校生活を送ることができるように、自他の成長を見据えて、進んで異学年が関わり合うようにする。 ③子どもが主体となったあいさつ運動を通して、あいさつの大切さを自覚し、気持ちの良いあいさつができるようにする。
担当	児童指導部

豊かな心に関わる本校の状況	今年度の目標
学習状況調査の生活意識調査から、自分に関することに対しては意識が高いものの、周りの人とかかわりには意識が低いことが分かった。また、YP アセスメントシートの結果から、全体的に自尊感情が低い傾向にあることが分かる。豊かな心の育成にむけて、お互いを認め合い、高め合う人間関係づくりが、重要になってきている。	・自分の良いところに気づき、自尊心を高めるとともに、周囲の人を大切に思い、豊かな人間関係を築こうとする心情を育てる。
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	○道徳教育・人権教育の充実 ・あいさつ週間と人権週間に挨拶と人権がテーマの道徳授業を1時間ずつ必ず実施する。 ・道徳的価値について自ら考えるきっかけとなるよう、日々の学校生活を反映させた題材を活用する。 ○あいさつ運動の実践 ・「あいさつ運動(各クラス1週間の実施内容を工夫した、登校後正門前での挨拶の呼びかけ)」を通して、あいさつの大切さを自覚し、進んであいさつができるようにする。 ○異学年交流を意識した、他者との関わり合いの充実 ・遠足、運動会などの行事を通して、異学年交流を積極的に行うようにする。その際には、高学年、中学年、低学年の役割を明確にし、協力して臨めるようにすることで、学級集団だけではなく異年令同士の間を築くようにする。 ・代表委員会などを通して、子ども自身が、必要感をもって主体的に取り組めるような活動を学級、学校で行い、他者との関わりを自分からもとうとするようにする。
下半期	○道徳教育・人権教育の充実 ・あいさつ週間と人権週間に挨拶と人権がテーマの道徳授業を1時間ずつ必ず実施する。 ・道徳的価値について自ら考えるきっかけとなるよう、日々の学校生活を反映させた題材を活用する。 ○あいさつ運動の実践 ・「あいさつ運動(各クラス1週間の実施内容を工夫した、登校後正門前での挨拶の呼びかけ)」を通して、あいさつの大切さを自覚し、進んであいさつができるようにする。 ○異学年交流を意識した、他者との関わり合いの充実 ・遠足、運動会などの行事を通して、異学年交流を積極的に行うようにする。その際には、高学年、中学年、低学年の役割を明確にし、協力して臨めるようにすることで、学級集団だけではなく異年令同士の間を築くようにする。 ・代表委員会などを通して、子ども自身が、必要感をもって主体的に取り組めるような活動を学級、学校で行い、他者との関わりを自分からもとうとするようにする。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①体力・運動能力調査を分析し、本校の健康課題を見つめ、解決に向けた活動を設定する。(体力向上タイム・運動週間など) ②学校保健委員会を活用して、健康課題解決のために全校で取り組む。 ③すこやかタイムでは、児童の委員会活動との取組とも関連させながら、運動・保健・食育について深められるようにする。ロイロノートのアンケート機能を活用しながら、振り返りの時間も充実させる。
担当	健康教育部

健やかな体に関わる本校の状況	今年度の目標
過去の「横浜市体力・運動能力調査」のデータより、本校は長座体前屈、50メートル走、握力が低い傾向にある。その中でも上記データより「柔軟運動」に注目する。また、楽しく運動に親むことができるように年間を通して、様々な運動体験ができる機会を設ける。新体力テストの結果から、ほとんどの項目で市平均を上回るか同等の記録が出ている。特に、20mシャトルラン、反復横とびの結果の良さは顕著である。市の平均を上回っている立ち幅跳びと長座体前屈については、市平均を下回る学年もあり、瞬発力と柔軟性の向上が、本校児童の課題と考えられる。すこやかタイムや学校保健委員会では、二谷小学校児童の健康面での課題を提示し、バランスの良い食事への意識を高める場としてきた。	子どもが運動する楽しさや喜びにふれ、日常生活の中に進んで運動を取り入れることができるようにする。
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	○一校一実践運動で長縄や短縄、柔軟運動を取り上げる。児童が楽しく運動に親むことができるように、運動委員会を通して、児童主体で計画、運営していく。運動紹介カード、ロイロノートの機能なども活用し、継続的に取り組むことで、記録・技能向上の達成感を味わうことができるようにする。 ○バランスのよい食事の大切さに気づき、自分がとるべき食品を主体的に食べ、健康に過ごすとする意欲を育む。家庭科では、食育との関連を図り、栄養を考えた食事のとり方や、食事の役割について学ぶことにより、食生活を総合的に学習する。その中で、日常とっている食事を改めて見つめ直し、日常生活の中で主体的に活用できる力を養う。また、今年度はよい姿勢についても活動の中に取り入れ、考えていくこととする。
下半期	○一校一実践運動で長縄や短縄、柔軟運動を取り上げる。児童が楽しく運動に親むことができるように、運動委員会を通して、児童主体で計画、運営していく。運動紹介カード、ロイロノートの機能なども活用し、継続的に取り組むことで、記録・技能向上の達成感を味わうことができるようにする。 ○バランスのよい食事の大切さに気づき、自分がとるべき食品を主体的に食べ、健康に過ごすとする意欲を育む。家庭科では、食育との関連を図り、栄養を考えた食事のとり方や、食事の役割について学ぶことにより、食生活を総合的に学習する。その中で、日常とっている食事を改めて見つめ直し、日常生活の中で主体的に活用できる力を養う。また、今年度はよい姿勢についても活動の中に取り入れ、考えていくこととする。